

○岩井 梢¹⁾、西本美恵子¹⁾、松岡奈保子¹⁾、久保田祥子¹⁾、守山正樹^{1)、2)}

1) NPO 法人ウェルビーイング、2) 福岡大学医学部公衆衛生学教室

【背景】福岡市内の失職者・路上生活者のために就労自立支援センター（以下、センター）が2009年11月に開所した。定員は50名で就労するまでの一定期間入所できる。センターでは、入所者は就職活動を行うと同時に、野宿生活で弱った身体や心の元気を取り戻すことも大切となる。退所後の自立した生活のために、病気の治療だけでなく、自分の身体や心の状態を知り、健康を維持・向上できる力を身につける必要がある。

【目的】健康教育を通じた自立支援を目的に、「入所者が自分の健康・身体について考えスキルを身につける」「就労・自立ができる。自立後もいきいきとした生活ができる」を目標とした健康教室プログラムを開発した。

【方法】教室は、アクションリサーチ（実践研究）を用い、リサーチクエスション（RQ）を設定し、問題を解決するかたちで進めた。2010年4-5月に4回の教室を実施した。2010年4月時点の入所者は22名で、4回の教室には平均13.5名（36.5±10.2歳）が参加し、3回以上の参加者は11名であった。

【結果】

RQ1：どのような教室を企画したか？

教室の特徴は、「①ヘルスプロモーションの視点を入れる、②入所者の負担にならないよう短時間で実施する、③入所者自身が自ら気づき生活を変更できるように参加型の内容とする」である。教室名は「心も体も元気になる歯っぴーセミナー」とし、歯科を入り口とした健康教室とした。教室では、生活全体の見直しができるよ



図1 教室の様子

うwify、2次元イメージ展開法、グループワークを取り入れると同時に、中・壮年期の健康課題である歯周病予防の知識提供、歯科医師による個別の相談会の時間を設けた。

RQ2：教室の評価はどのように行ったのか？

評価のために、入所者を対象に事前・事後のアンケート調査と教室後の感想シートによる調査を実施した。スタッフの反応は教室後の意見交換で把握した。

RQ3：入所者の反応は？

4回の教室を通して歯科の知識が増え予防に対する意識の高まりが確認された。また、教室が回を重ねるにつれスタッフとの交流が活発になり、1、2回目では時間の長さが不満とあがっていたが、スタッフとの交流の時間を設けてほしいという希望や教室の継続を望む声も出るようになった。

RQ4：スタッフの反応は？

教室は延べ35名がボランティアスタッフとして参加した。教室終了後に、スタッフから入所者に対する認識の変化、支援への意欲等の声が聞かれた。また、センタースタッフからは日頃の生活では見えない一面を教室で見ることができたという声が聞かれた。

【ラウンドテーブルでの検討課題】

- ・健康教育で就労支援の可能なのか？
- ・いろいろな分野の方が就労支援に関わり、ネットワークを作るにはどのような方法が考えられるか？

地域や職域で成人を対象とした健康教室に取り組んでいる方のご参加をお待ちしています。

（連絡先）岩井 梢、NPO 法人ウェルビーイング、E-mail : iwai@well-being.or.jp、URL <http://www.well-being.or.jp>